

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	マーケティング2 (Marketing 2 ) 393154-14350					担当教員	百合岡 雅博 (ユリオカ マサヒロ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単 位 数	2	配当年次	3年次	開講期	後期
科目特性	資格対応科目 知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
<p>マーケティングは企業や行政など、あらゆる組織にとって顧客や市場と直接の関係を構築・維持する機能で、この成否が成果や業績をおおしく左右する、非常に重要な機能である。</p> <p>本授業では、さまざまな業種・分野を対象にモノの開発から流通までの一巡をマーケティングの視点からとらえることで、マーケティングに関する応用的な知識の習得と理解を深める。</p> <p>リテールマーケティング（販売士）検定試験2級「マーケティング」に対応した科目である。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
<p>プリント資料の配布とプロジェクターによる説明を加えた知識提供型の授業を行う。</p> <p>毎回、授業の冒頭では前回の復習を行うことで記憶の再生や定着を促す。</p> <p>授業外の課題に取り組み、その内容に対してフィードバックを行う。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「販売戦略」「ロジスティクス」「販売管理」「流通論」「商品学」「中級販売士演習」とあわせて履修することを強く推奨する。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
<p>(i) さまざまな業種や顧客や市場の把握から活動までの一連を体系的に理解し、マーケティングとは何をするのか説明できるようになる。</p> <p>(ii) マーケティングに関する理論や事例などをもとに自分なりの言葉を用いた資料が作成できる。</p> <p>(iii) マーケティングに関するディスカッションやプレゼンテーションなど、コミュニケーションができるようになる。</p>
⑥ テキスト（教科書）
競争としてのマーケティング総合法令
⑦ 参考図書・指定図書
日本商工会議所・全国商工会連合会編『販売士ハンドブック（応用編）下巻』（キャリアック）

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) マーケティングの理解	マーケティング活動を理解し、何をすることができ、授業内容を越えた学習成果を示している	マーケティング活動を理解し、何をすることができ	マーケティング活動について、資料を参考にしながら、何をすることができ	マーケティング活動について、資料および教員などの支援を受けて、何をすることができ	マーケティング活動について、資料および教員などの支援を受けても、何をすることができない
(ii) 説明資料・レポートの作成	マーケティングに関する理論や事例をもとに資料やレポートが作成でき、授業内容を越えた学習成果を示している	マーケティングに関する理論や事例をもとに資料やレポートが作成できる	マーケティングに関する理論や事例をもとに、必要最小限の資料やレポートが作成できる	マーケティングに関する理論や事例および教員などの支援を受けて資料やレポートが作成できる	マーケティングに関する理論や事例および教員などの支援を受けても資料やレポートが作成できない
(iii) コミュニケーションの実施	マーケティングをテーマにしたディスカッションやプレゼンテーションができ、授業内容を越えた学習成果を示している	マーケティングをテーマにしたディスカッションやプレゼンテーションができる	マーケティングをテーマにしたディスカッションやプレゼンテーションに参加できる	マーケティングをテーマにしたディスカッションやプレゼンテーションに教員などの支援を受けて参加できる	マーケティングをテーマにしたディスカッションやプレゼンテーションに教員などの支援を受けても参加できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	40%		25%		20%	15%		100%
(i) マーケティングの理解	25%		10%		5%	5%		45%
(ii) 説明資料・レポートの作成	15%		10%		5%	5%		35%
(iii) コミュニケーションの実施			5%		10%	5%		20%
フィードバックの方法	提出された課題は、授業のなかで紹介するとともに、解説する。 提出されたレポートは、授業のなかで紹介・解説するとともに、模範解答を示す。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）	
はじめてマーケティングを学ぶ人でもスムーズに理解できるよう事例などを示しながら授業をすすめるので、ここからマーケティングの基礎となる「考え方」や「視点」を理解するとともに、自らがマーケティングについて思考・行動し、マーケティングマインドの向上に取り組む。	

⑪ 授業計画と学習課題 MK2			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション・イントロダクション 授業のすすめ方・マーケティングの概要	マーケティングミックスとは何か、 確認しておくこと。	60分
2	顧客志向と競争志向① マーケティング	テキスト（教科書）の第1章を読み それぞれの志向のマーケティング の特徴について考える。	60分
3	顧客志向と競争志向② ブランディング	テキスト（教科書）の第2章を読み それぞれの志向のブランディング の特徴について考える。	60分
4	顧客志向と競争志向③ ポジショニング	テキスト（教科書）の第3章を読み それぞれの志向のポジショニング の特徴について考える。	60分
5	顧客志向と競争志向④ プライシング	任意で製品を選び、その製品と同一 カテゴリーの製品を3つ以上選び、 それぞれの特徴を比較する報告資 料（レポート）を作成する。	120分
6	授業外の課題のフィードバックⅠ カテゴリー内の製品を比較する方法のポイン ト	テキスト（教科書）の第4章を讀ん で、戦略と戦術の違いをマーケティ ングの視点で考える。	60分
7	リージョナルプロモーション① プル戦略	小売業の経営に活かせそうなビッグ データの活用方法を考える。	60分
8	リージョナルプロモーション② インスタプロモーション戦略	割引（クーポン含む）やサンプル提 供以外のインスタプロモーション 方法を考える。	60分
9	リージョナルプロモーション③ インスタマーチャンダイジング戦略	購入単価の構成要素をもとに、クロ スセル・アップセルそれぞれの方 法を考える。	60分
10	インバウンド	新潟地域にインバウンド客が来る ようにするために小売業ができる ことを考える。	60分
11	商圈戦略とストアロケーション	専門品・買回品・最寄品それぞれの 製品を選択、消費パターンを比較・ 分析し、報告資料（レポート）を 作成する。	120分
12	授業外の課題のフィードバックⅡ 購買態度別の消費財の分類による比較分析の ポイント	店舗での販売と無店舗での販売の 特徴について考える。	60分

13	マーケットリサーチ（市場調査）	日常生活のなかで利用している店舗の調査することを想定して、どのような調査を行えば良いか考える。	60分
14	製品ライフサイクル・競争地位別戦略	テキスト（教科書）の第5章を読みそれぞれの志向の競争地位別戦略の特徴について考える。	60分
15	まとめ	これまでの授業の復習	60分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型 AL を採用する。 毎回の授業で質疑応答の時間を設けるとともに、授業の最初には前回の授業の質問や感想について解説を行うことでフィードバックし、学生の理解度を高める。 知識の定着を図るために、授業外の課題を実施することで学生のアウトプットを行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
<p>トーマツコンサルティングはじめ、複数のコンサルティング会社で約15年間、さまざまな業種・規模の企業の課題解決に取り組んできた。なかでも、マーケティングや営業改革のプロジェクトを中心に、戦略立案、ITシステム構築などのプロジェクトに数多く携わることで、組織の業績向上に貢献できるよう取り組んできた。</p> <p>新潟市産業振興財団では、新潟地域の中小企業の経営課題への対応や起業者の支援などに10年以上携わる。中小企業の経営課題のなかでも、製品開発と販路開拓を中心に取り組み、また、行政の産業活性化施策の検討などにも携わる。</p> <p>この他、家業の建設業では経営管理として資金繰りの担当者、ITベンチャーでは営業責任者として販路開拓などに携わる。</p>	
実務経験と授業科目との関連性	
<p>本授業では、さまざまな業種・分野におけるマーケティングを理解するとともに、実践するときの視点やポイントの習得を目指す。</p> <p>マーケティングや営業改革のコンサルティング、製品開発や販路開拓の支援事業などの実務経験を背景に本授業では事例の紹介などを行う。また、学んだ知識を社会に出たから実際に活用できる知恵で、ビジネスで通用する実務力の習得を意図した授業を行う。</p>	